

《アンケート》

男子スタッフ

①女子寮で、看取りを行っているスタッフの様子を見て感じた事は？

- ・皆さん、一生懸命取り組まれていたと思います。色々な事を試行錯誤しながら、尚恵らしいとても気持ちの入った看取りだったと思います。
- ・時折、顔を見に行く位で、支援まではできなかった。関わる事があればもっと関わりたかった。
- ・職員全員が一緒になり、学園以外の人とも関わり、一人を見ていくという流れ、思い、チームワークをととても幸せだと思い見ていました。同時に、男子スタッフはできるか？皆の思いを一つにまとめられるかとも感じました。夜勤の時、何があってもおかしくない状況の中で、男子もいるという所を見せていければと思っていました。夜勤の時は、対応、気持ち、動きなど大変だろうと思いました。
- ・初めての試みで大変さと緊張感が伝わってきました。
- ・そばで一緒に会話をするような雰囲気を楽しませる（和ませる）声掛けをされていて良いと思った。
- ・とても一生懸命、Yさんの事を思って支援できていたと思う。ただし、とても疲れているように見えた。
- ・素直に大変と思いました。特に若手の職員が（1、2年目）は、今まで感じた事がない不安があったと思います。上がりの日は、今まで以上に気が張っており、疲れがあるように見えた。

②それに対して、改善できる点、工夫点は？

- ・この経験を活かし、今後役に立てていければと思う。
- ・同性介護という事もあり、直接は難しいが、ドライブ等、女子スタッフが付き添えば出掛ける事も出来たように思う。（1対1は難しい）
- ・看取りは、一人で判断するのではなく、二人（できれば同性）がいると良いのではと思う。
- ・男女問わず、勤務者の役割を、その時の状況に応じて流動的にアレンジ、厚生園全体で協力していければと思いました。
- ・看取りは、夜勤は常時二人体制だと負担の軽減が出来るかと思います。今後、トラウマになってしまう人も出てきてしまうかもしれません。カウンセリングの場もあればいいのかと思いました。
- ・不安を改善するのなら、二人体制の夜勤ができればと思いました。男子も泊まれる職員は、協力できれば、女子職員の不安を軽減できると思いました。

③今後に向けて、感じた事（自由な意見）

- ・これから何が起こるかかわからないので、いつでも冷静な対応ができるように心掛けていきたい色々な意味で、どっしり構えて楽な気持ちで利用者さんと過せればと思います。
- ・男子職員も出来る事を探しておくべきであった。小さい事も思いつくと思えた。朝の引継ぎの交代もできたと思われる。
- ・高齢者の方に対応が特化した施設、ユニットは必要と思います。今のままでも対応はできるが、人数も多く、年齢も様々で動きの差があり過ぎると感じる場合があります。高齢の動きに向け、思い出をしっかりと残す事も大切と思いました。

- ・今回の支援をまとめ、大変だった点、こんなサービスがあれば良かった（フォーマル、インフォーマル共に）話をする事もいいと思います。今後も同様のケースが増えるし、施設として終末期の利用者支援を考える良いきっかけになるし、必要なサービスを行政に訴えて行く事もできると思う。女子スタッフの皆さん、お疲れ様でした。
- ・いつ何が起きるか分からない為、看取りの利用者がいる時は調子が良い日でも迎えや見回り等男子、女子が出来る事を協力していければと思う。
- ・看取りという初の試みで、本当にご苦労様でした。これからもこのような場が増えてくると思います。苦しんでいる本人を見るのもそうですが、いつ息が止まってしまうのかという恐怖もずっと心にあったと思います。体力的な疲れもあったと思います。その心身の疲れをチームでフォロー、共有、サポートする環境の重要性を再認識できました。
- ・看取りに限った事ではないが、男子、女子利用者さんが落ち着かない時は、男女問わず、全職員で泊まりを行った方が、身体的、精神的にゆとりを持てると思いました。

女子スタッフ

①寮で見て、良かった点、頑張った点は？

- ・日常の聞きなれた声の中で生活する事ができて良かったと思います。安心感があったと思います。身の周りのお世話、投薬など頑張っていたと思います。
- ・Yさんと一緒に同じ時間を過ごせた事。チームで頑張っていこうという意識が高まったと思います。長年、一緒に生活してきた利用者さんと最後まで一緒に居る事ができ、常に皆の声が傍で聞けていた事です。
- ・昔から過ごしていた所で最後を迎える事が出来た事。その時を一緒に過ごす事ができて良かったです。
- ・夜勤の時は、本当に大変であったと思いますが、寮にいてくれたので、毎日顔や様子を見る事ができた事は良かった。盆踊りや、リトミックなどに参加したり、普通にいられた事は嬉しく思った。
- ・Yさんが安心できる空間が、雄飛寮の賑やかな空間だと思いました。他の利用者さんも皆Yさんのことを気にかけてくれて、ご自身も幸せだったのではないかと思います。安心できる空間で、安心できる職員、利用者の中で最期を迎えられたのは本当に良かったと思います。
- ・寮で見る事ができ、中々できない経験ができた。他利用者さんの一面を見る事ができた。他利用者さんの事も忘れないように意識したり、Yさんに細目に水分補給をとっていただく意識した点では頑張る事ができたかなと思う。
- ・Yさん本人も厚生園で生活したいと思っていたので、ご本人の希望に添えた事は良かったと思います。私達スタッフも、人間の生命力を感じる事ができ、言い方は良くないと思いますが良い経験になったと思います。
- ・寮で見た事により、職員全体がYさんと向き合い、今後どうするべきかを考える事ができたのが良かったです。（入院中は、あまりお見舞いに行く事ができなかったの）
- ・利用者さんも、Yさんを気に掛けてくれて良かったと思います。お見舞いに行ける方も限られてしまうので。夜勤一人で見るのは本当に不安でしたが、職員も利用者さんも皆で協力して

最後まで頑張ることができて良かったです。

- ・皆と一緒に最期までいられたのが良かったと思う。支援者皆が、気を使いあって業務に取り組んだ事。
- ・入院中の Y さん、寮での Y さんは全然違い、本当に尚恵で過ごしたいのだと思いました。最期の時を、皆と一緒に生活してきた場所で協力して看れて良かったと思います。その日にいる職員で協力しながら、ご本人の様子を把握し、好む事を考えたり、至らないところも多くなりましたが、少しは Y さんの為になったかと思います。
- ・ご本人の寮で皆と一緒に過ごしたいという思いに寄り添うことができたのかなと思っています。自分もまだご本人と一緒に過ごせることが嬉しかったです。
- ・正直な所、常にご本人へと気持ちが向ってましたが、他の皆も見ているから大丈夫だよと平等に配慮するように心がけていました。新人職員や、若手職員が心配や不安を抱えていないか、配慮するように心がけていました。
- ・Y さんが安心できる人たちに囲まれて、心安らぐ場所で最期を迎えられた事は、良かったのではないかと思います。これまで共に過ごされてきた他の利用者様にとってもそれぞれに何かを感じることができた時間だったのではないのでしょうか。
- ・聞き慣れた声を毎日聞きながら、目の見えなくなった Y さんにとっては、とても安心できる場所だったと、毎日 Y さんを見ながら感じました。退院したばかりの Y さんは動いていて、また、段々衰弱していく姿を見る夜勤者は大変だったかと思います。いつも Y さんを気にしてくれている利用者さんを見て、私たちは勇気づけられたのではないのでしょうか。
- ・最期の時まで、住み慣れた寮で、大好きな職員やお友達に見守られて旅立って行った事は本当に良かったと思いました。Y さんの命を通じて、人が生きる事はどういうことなのか、死に行くことはどういうことなのか、自分に出来る事は何なのか、たくさん考える機会を与えてもらった事は、本当に尊い事と思っています。
- ・ずっと尚恵の利用者として生きていた事がご本人の希望であり、他の利用者さんとの関係性も良かった。寮以外のスタッフ、ご家族、皆で協力する事になり、彼女の存在が助け合う状況を作れた。人が普通に生きる事の大切さを見せてもらえた。病気だから、何ができないからなんて関係ない、人は住み慣れた場所で生き、死んでいきたいと言葉でなく教えてもらった。
- ・ご本人の思いに寄り添えた事で、Y さんに対して優しい気持ちになれた。自分自身が後悔したくないと常に思っていたように感じます。私の仕事は、命を預かる仕事なんだと改めて何度も何度も思いました。
- ・Y さんが、他の利用者の声の中で過ごせた事。いつもの日常の中で、身体が動けなくなっても皆の輪の中で過ごせた事は、安心出来て幸せだったと思う。勤務時間の中で、その時に出来る支援はそれぞれ職員が協力して行ったと思う。皆が Y さんが喜ぶ事や、どうすればより良く過ごしせるかと考え、対応していたと思う。

②寮で見て不安や、心配に思った点は？

- ・夜勤職員が一人の時に、何が起きるかわからない不安や心細さがあったと思います。
- ・夜間、一人での対応は、若いスタッフは不安でないかと心配であった。
- ・夜勤の際、一人になってしまう時は不安であった。

- ・熱が出たり、あまり調子が良くなさそうな時はとても心配になった。夜勤の負担は大きかったと思います。Sさんのように色んな動きをされる方もいたので、工夫が必要と感じました。
- ・容態が急変した時に、冷静に対応できるか？ ご本人から離れた時に、不安はあった。立ってしまったり、ゴロゴロしてホールに行ってしまったりと怪我の心配もありました。
- ・Yさんがどのように息絶えるがわからなかったのが不安だった。亡くなった際の対応についても不安な事があったが、途中から示して下さったのでその点では安心した。
- ・いつどうなるかわからない状態だったので、自分が夜勤の時に何かあったらどうしようという不安はありました。もし、夜勤の時に何かあったら、自分は冷静に判断をして行動する事ができたのかどうか疑問に感じます。ほとんど食事が摂れていないのに、大量の嘔吐があった時は、すごく心配になりました。
- ・夜勤一人で看るのは、やはり不安でしたが、いつでも相談できる訪看さんがいたのは心強かったです。
- ・自分はたまたま息を引き取る瞬間に一緒に居る事ができましたが、突然亡くなったと聞いた職員はどんな気持ちだったかな？と思いました。呼吸が苦しそうになった時点で、皆に連絡するのはどうでしょうか？（来たけど間に合わなかった、来られなかったと後悔してしまう人もいるかもしれませんが）亡くなった後、気持ちを次に持っていくのが大変でした。いつまでも悲しい気持ちを引きずってしまいました。
- ・夜間、状態は急変した時に、どう対応したらよいかと不安、心配であった。常に「明日かも、今日かも」と心のどこかで気を張っていた事。
- ・自分が日中のみの支援であった為、相談する職員がいない事はなく、また、I看護師、F、S、W主任がすぐに対応してくれ、訪看も来て下さり、「今何があってもおかしくない」という不安はありましたが、夜間の一人に比べると不安は少なかったと思います。
- ・夜間、緊急事態になったらと、夜勤時は覚悟していましたが、少しだけ心配でした。ご本人が苦しんで辛そうな状態に急変したら、どうしようと思っていましたが、そんな姿は見たくないと思ってました。自分の時もなって欲しくないけど、他の人の時もなってほしくないな思っていました。
- ・日々、状態が変化していく中で、何をどのようにしてあげる事がYさん楽に過ごせるか、言葉や訴えが少ない分、対応の難しさを感じました。また、専門的な医療の知識が自身にもなく容態が急変した時の対処等の不安を感じました。
- ・退院したばかりは熱があがったりすると「大丈夫かな？」と不安がよぎりました。しかし、日がたつにつれて、案外Yさんは頑張れるんだなと思いました。
- ・少しの変化も気付けるように、気をつけてきたのですが、これで良いのか？大丈夫なのか？といつも不安になる事がありました。
- ・最後の退院当初は、いつどうなるかわからない事が怖かったですが、ご本人の頑張っている様子と訪看さんの方の言葉、ナースや、上の方の言葉、動きなどで自分自身の覚悟も出来ていったように思います。訪看さんは心強かった。ただスタッフの気持ちが良く見えず、不安や心配に思っている事を表にだせなかったのではないかと思います。
- ・日中は職員がたくさんいた為、不安ではなかったが、夜勤は一人で有った為、不安と心配であ

った。他の利用者に関わっている間に、何か起こるのではないかと思っていた。9月の夜勤は、心構えをして行っていた。ナースではないので、変化に対応できるか不安で、Yさんが眠っている20分おきに、身体を触ったり、血圧、体温などその都度測らないと不明な為不安であった。他の利用者さんがYさんの症状がわからず、戸惑ってしまう動きも心配であった。

③それに対して改善できる点、工夫点は？

- ・夜間二人体制を続けることが難しいが、二人の方が安心できるかと思いました。
- ・もしできるのなら、夜勤を二人にできないかと思いました。次の日が休みであれば、可能かと思いました(少し大変になってしまいますが) 安心して夜勤者も仕事ができるかと思います。
- ・亡くなった際の対応(救急車を呼ぶか呼ばないか、訪看に連絡するなど)が、普段と違うやり方で行うのであれば、今回のように決めていただけたら、わかりやすいのではないかと感じた。
- ・いざという時はどうするかを自分の中で、しっかり考えておく必要はあったと思います。
- ・看ている最中は皆でたくさん話し合いができたので良かったと思いますが、亡くなった後も、皆で話す機会があったら良かったと思いました。
- ・看取りについての研修や勉強会に参加したいです。
- ・夜間の対応は、夜勤者でシュミレーションを行う。
- ・緊急事態が不安という点には、不安要素を無くす、ご本人の状態に合わせた対応マニュアルのような物を作って、少しでもわからない事を無くすことが良いと思います。また、職員間で不安や心配事を打ち明け、共に分かち合えたらと思います。
- ・女子スタッフで、Yさんについて話し合いを開いて、共通理解を深めたり、情報共有、交換をしてどんなケアが適切なのか、話し合いをした方が良かった様な気がしました。
- ・yさんの場合、二人夜勤を組む際、ご本人の担当を他の部署の方をお願いしても良かったかもしれない。やりたい、やる気だけでは難しい。病院での付き添い、通院、具体的に出来る事をだしてもらわないとチームとして成り立たない。その点を、ご本人に負担してもらっても良いかと思う。
- ・Yさんに対しては、自分達だけでやっていたのではない為、これで良かったと思います。スタッフに対しては、自分からもっと話をするべきだったと反省をしている。夜勤の時どうだったとか? 困っていることはないか?など。
- ・身体が動かなくなっから夜間の付き添いがいてくれると心強かったと思う。夜勤では、他の業務もあり、Yさんにずっと付き添う事は無理なので、ずっと付き添ってあげたかった。その方がYさんも安心できたかと思う。全ては無理でも、可能な日はあったかも?

④今後に向けて、感じた事(自由な意見)

- ・今回はYさん一人の闘病であったが、複数人だったらどうなるだろう? 利用者さんそれぞれの障害、特性によっても支援の仕方が違うだろうと漠然と考えた。
- ・自分達も初めて「看取り」を経験して、勉強になった事や、感じた事、気持ちの持ち方、意識が高まった事等、皆で頑張った事で、Yさんを看送る事ができ、Yさんに「頑張ったね」「ありがとう」の気持ちで一杯です。自分の中でも気持ちの整理と覚悟が出来ていました。本当にYさん、皆にもありがとうと心から伝えたいです。
- ・どうしてもYさんばかりに目がいってしまい、他の利用者さんにも目を配れるようにした

いと思いました。

- ・今回は、ご本人も学園にいたいという気持ちがあり、みんなの中で生活し、行事にも参加できて嬉しそうに（安心して）様子だったので、側にいた事が嬉しかったです。今後も、ご本人の希望がある限り、このように過ごして頂けるように頑張りたいです。ただ、同じような人が2、3人となった時は、元気な方との共有が難しくなるかとは思っています。
- ・尚恵も高齢化が進んでいるとの事で、Yさんのように病気で亡くなってしまいう方も増えてくるのではないかとすると、悲しい気持ちと、自身がしっかり業務を果たさなければいけない事を強く感じた。また、誰かに強く目が向けられることで、他の利用者さんの何方かに目が行き届かなくなってしまうのではないかと、悲しい事が重ならなければいいと思う不安な気持ちもあつた。けれど、細やかに記録を残したり、不安な気持ちを共有して下さるスタッフがいて、上がりの日には安心して事が多かった。Yさんが教えて下さったことが無駄にならないようにこれから頑張っていきたいです。職員間の絆も以前より深まったように気がして、良い雰囲気を感じています。
- ・最初の入院で、退院後に弱っているのを見て、病気は怖いと感じました。その後の入院後や日々の生活の中で、段々体力が無くなっていくのを見て辛くなりました。一番辛いのは、Yさんのはずなのに、頑張って生きようとする姿は、こちらも見習うものがあると感じました。もしこれから先、同じような事があつたら、その方の気持ちを優先的に考えるべきだと思いました。寮で見ていたからこそ感じたこと、学べた事は沢山あると思います。貴重な体験をさせていただきました。サポート、助言をしてくださった先輩方ありがとうございました。
- ・男子職員、女子職員、利用者さんも全員で協力して、最後までYさんを看取ることができたという安心感（満足感？）があります。私も一人の職員として、出来る事は精一杯行いました。一人で不安な夜勤も、Yさんのことを考え、最後まで頑張る事ができました。でも頑張った分だけ、亡くなってしまった後は心に大きな穴があいてしまったような感じがしています。一人になったふとした瞬間に、Yさんのことを思い出し、どうしようも無い気持ちになってしまいます。長く働いている職員は皆経験していること、次は他の利用者さんの事を考えようと思っても、上手く気持ちを切り替えることができません。この気持ちは時間が解決してくれるかなとも思いますが、他の職員と自分の気持ちを話し合う機会があればと良いなと思いました。今回の事で、本当にたくさんのごことを学ぶ事ができましたし、これからの尚恵について考える良い機会になったと思います。個人としても亡くなる瞬間に立ち会うことで、命について改めて考えさせられました。この事は一生忘れないと思います。まだまだ、自分の気持ちを上手く言葉にまとめられませんが、チームの一員として頑張ることができて良かったです。これからも利用者さんのより良い生活の為に一生懸命頑張りたいです。
- ・改めて、「対人援助」の仕事と強く感じました。常に利用者さんの「人生、命」に関わっている事に不安を感じました。
- ・寮で看取る事を自身でも心を決めたけれど、死と向き合う事が怖かった。今後、利用者さんの年齢があがるにつれて、看取りや死に対して向き合うことが増えていくと考え、自分が皆と死に向きかう自信がないと思います。今を楽しく過ごすと思っても、自分が皆に対して、何をしたら楽しんでもらえるか、皆と楽しく関わっているかがわからないと感じています。Y

さんを寮で看れて良かったと思う気持ちと、自分の勤務時間中でなくて良かったと思ってしまう気持ちがある。

- ・利用者さんも皆高齢が進み、今後このような看取りのケースが多くなると思います。子供の頃から尚恵で生活をしている利用者さんが多い事もあり、最期の時を尚恵で過ごしたい方も多いかと思っています。今回のようにご本人が望むなら、最期の時をご本人の好きな場所で迎えられたら良いのかと思います。職員の負担は多くなると思いますが、私は、Yさんと最後の少ない時間を一緒に過ごす事ができ、支援することができ良かったと思っています。
- ・看取することは、ご本人も職員もお互いに辛いことだと感じました。先が短いことが分かっているでも、一生懸命に生きることを頑張っているご本人を見ることは、辛いと同時に私の中に希望を与えてくれました。そして一日一日、頑張って生きているご本人の気持ちに伝えていかねばと思いました。しかし、病気が進行してからは、今まで好きだったものにも反応がよくなり、もっと元気な時に、もっとたくさん関わって遊んでおけば、もっともっと楽しい思いをさせてあげたかったと後悔してしまいました。病気だけが、Yさんの人生だけであつたわけではないですし、Yさんが最後まで一生懸命で、生きる力ってすごいと感動しました。Yさんに生きる希望をもらったんだと思います。良い事ばかり書いていますが、本当は寂しいし、悲しいです。もっとYさんと色々やりたかったと思います。自分が自分に後悔しています。Yさんが、自分の人生を生き切ったと思えていれば、それが一番いいです。
- ・今後のことを考えると、看取りはできれば無い方がいいのかと思いますが、必ず直面するものだと思います。その時に、ご本人も周りの人も自分も後悔しないように、みんなが「がんばった」「やりきった」「生ききった」と思えるような人生にしたいと思うので、一日一日大切に生きたいと思います。
- ・今回、看取りの支援に関わることができ、Yさんからは沢山の事を教えられた気がします。職員も利用者さんも一生懸命になれたのは、ご本人の人柄、魅力と思いました。ターミナルケアとは、施設職員として私たちは何ができるのか漠然としていた様な気がします。今後、研修など行ってもらいたいです)
- ・これから高齢になっていく中で、このようなケースが増えていくでしょう。Yさんは大声を出したり、激しく動く事がなかったので、本当にみんなの中で看る事が出来たと思いますが、このようなケースばかりではないと思います。ケースバイケースでいくしかありません。しかし、Yさんを看取って私達職員が一致団結するとやれる事を身を持って知ったと思います。ある程度まではできると感じました。(訪看さんの協力があつてこそ)看護師、主任者の的確な指示は、現場の職員には心強かつたのではないかと思います。
- ・これからも看取りのケースが増えてくると思うので、勉強会を開いたりしながら、知識を増やしていけたらと思いました。寮で看取するには限界があるかもしれないが、きっと厚生園の職員ならやっていたらと思えました。このような形だったけど、みんなでYさんの為に…と、心を一つにして頑張れた事は財産だと思いました。相手を気遣って、中々意見を言い出せない事がありましたが、みんなでフォローし合って、考えて伝える事ができたので、相手の気持ちを理解する事ができて良かったです。もっと勉強したいと思いました。
- ・今できる最高の支援だったかもしれない。寮、他の職員、関わった誰もがYさんについて考え

を巡らす一年半はなかったと思う。誰からも気に掛けて愛情や、励ましをもらった人はいないだろう。ただ純粋に病院は嫌で、長く暮らした尚恵の暮らしを望み、一日でも長く普通を願い過ぎてくれた彼女だからできた事だろう。他の業務、命を支えるプレッシャーは重く、時として逃げ出したい時もあった。しかし、彼女は尚恵の日程をこなし、日々生きてくれた。終末期には、H 薬局さんから繋がるチームがある事、そのチームと組む事も彼女が導いてくれました。自分自身の至らない所、弱い所も見せられ、そこをすぐに克服するとは思えませんが、次もやります！というつもりもないですが、最高の支援だったと思います。

- 全体の大変さの半分以上を上の人達が支えてくれたと感じています。最後のセレモニーまでここでやらないといけないのかという気持ちも半分ある。上が覚悟を決めてくれたことで、尚恵で過ごせたと感じている。他のスタッフが出来た事を書き出してください。
- 看護業務としては、他の人の通院、薬の準備などを手伝ってもらって助かった。自分は、ハニーさんや、経験のある看護師さんに相談する事で対応できたが、気持ちのケアが意外と大切と思いました。長く続くとより感じた。今後は、通院の方法（タクシーを使う等）、セレモニーの方法などご家族と考えても良いかと思えます。
- 結局、今回のリーダーは Y さん自身でした。その代弁者として上の人が出て、寄り添いづれなかった事、障害を持ち、言葉もなく、自分の希望を純粋に貫き、スタッフはその希望に応えたから、最期の時間を共有できたと思う。自分の限界を超え、新しい職業人としての自分を導いてもらったと思います。燃え尽き感がありますが、次の一步を普通に踏み出せるかもしれません。看取りはやらなきゃではなく、一人一人に寄り添い、個々の人生に寄り添うと自ずと見えてくるかもしれません。彼女が精一杯立派に生きていた事が、何よりもの答えだと思えます。
- 看取りを行うという事は、大変でした。身体はどうにでもなるけど、精神的に疲れました。でも、やって良かったと思っています。寮の中は Y さんが中心になってしまいましたが、他の利用者さんも無理に我慢をしている様子はなかったように感じます。旅立った後も大きな反動はなかったと思う。利用者さんの望みをすべて叶える事は難しいと思うけど、最期の望みは受け止めたいと思う。Y さんは最期ということがわかっていたから、優しくなれた。でも、K さんや、F さんを思うと…。
- 自分の時間で病院に行ったり、仕事ではなくなっていたと思うけど、やっぱり人が対象の仕事だから割り切る事はできない。特例ばかりと言っていた人がいたけれど、一人一人の人生だから、皆同じには出来ないと思う。ただ、これが何人もになったら、無理かも…？ でも、自分ではできても、出来ることしか出来ない。スタッフの気持ちが見えなかったのは、自分の役不足であったと思う。もっと皆に対して、聞くべきであった。ただ、自分も手探りで日々やっていた。感情ばかり先走りしてしまうことに注意をしなければと思います。
- 高齢になると、今後の看取りがあると思われる。その時に後悔ないように支援し、皆さんと沢山思い出を作りたい。自分自身もいつどうなるかわからないので、精一杯生きなければいけない事を Y さんに教えていただきました。Y さん、ありがとうございました。

ご家族、F ドクター、訪問看護ステーションの方々、協同病院病棟の看護師さん、H 薬局さん、H 先生、K 先生、そして職員の皆さんの心温かい連携、介護によって、Y さんの思いに添う事ができました事を心から感謝を致します。

Y さんの病院ではなく、学園で過ごしたいという強い思いを感じ、職員の皆さんにかなりの負担をかけてしまった事は申し訳なく思っております。特に、夜勤の方には、心的な不安を多大にかけてしまった事と思います。夜は、職員二人でとも考えましたが、金銭的な事も含めて、先の見えない闘病生活は、更に職員に負担をかけてしまうと考え、今の所、他の利用者さんが、命に係わる大きな事もないので、夜勤はいつもの体制でとお願いをしました。職員が一人でも、疲労でダウンしてしまったら、入院を選ぶしか方法はなかったと思います。(他の利用者さんもいますので)

私自身も、夜の 12 時を過ぎると、「電話が無かった…、今度は朝かな？」と思いながらの毎日でした。思い返せば、病気が見つかり、治療を決断する時に、私の覚悟は決まっていました。いつかは、さよならする時が来ると…。その時に、出来る限りの事はしようと思っただけです。みなさんの協力なくして、Y さんの最後の時間はなかったと思います。関係者の方々から、一生懸命頑張ったとお誉めの言葉を頂いております。本当に Y さんの事を思って頑張っていたのだと思います。Y さんの傍には、必ず利用者さんもいてくれて、みんなの輪も強く感じました。Y さんの思い出は、本当に尽きません…。

一人一人の気持ちに寄り添う支援が、私達の強みであると思います。

これからも、チームワークを持って、他の関係機関の方々に協力をいただきながら、頑張りたいと思います。これからも、尚恵を愛する利用者さんの為に、がんばっていきましょう！

本当にありがとうございました。

サビ管 F.R